

I 今年度の取組と自己評価

(1) 学習指導

- ①新型コロナウイルス感染症拡大により教育委員会主催の研修会及び他校の指導教諭の授業研究等を活用することはできなかった。しかし、校内での相互の授業観察による研修の成果を共有し、授業改善につなげることができた。その結果、生徒の授業満足度は86%となり、今年度設定した85%の数値目標を達成することができた。昨年の86%と同数であるが、高い数字を維持することができた。
- ②学力スタンダード等を活用し、組織的な指導を行い、数学、英語を中心に成績向上に努めた。
- ③生徒が学習する環境を設定・整備した結果、朝や放課後の学校における自学自習が推進された。しかし、学校評価アンケート（1，2年）では定期考査直前を除いて学校以外では学習しない生徒が全体の3分の1程度いることが分かり、家庭での学習時間の増加が課題である。
- ④アクティブラーニングの推進校として最終年度であったが、新型コロナウイルス感染症拡大により、グループワーク、ペアワーク等の授業展開ができなかった。しかし、校内研修等で教員相互の取組みについて周知することで、授業改善も行われ学習の充実につながった。

(2) 進路指導

- ①今年度は長期休業中期間の短縮等もあり、講習を設定できる期間が少なかった。そのため夏期・冬期・春期講習は59講座であり、今年度設定した数値目標80講座を達成することができなかった。しかし、この社会状況の中では約60講座が開講できたことは評価することができると思う。朝学習や放課後の補習・自習等を充実させることができた。開講講座参加者の一層の増加が今後の課題である。
- ②インターンシップ・体験入学についても、開催が中止になることが多く、十分な情報提供をすることができなかった。公務員試験等に向けてのガイダンスは感染症対策を考えながら校内で実施することができた。今後、第一志望実現に向けた多様な取組を行い、一人一人の進路希望の実現を推進していくことが重要である。
- ③全員受験の模擬試験等の充実に加え、進路情報を共有して指導した結果、国公立・GMARCH以上現役合格者数が5名（－4名）、日東駒専以上現役合格者数が86名（－25名）となった。先が見えない状況の中で早く進路を決めたいという生徒の気持ちが、早期にAO入試、推薦入試を推し進めたと考える。
- ④毎年4回実施している保護者向けの入試制度の勉強会は実施することができなかった。今後状況を考え、再開していきたい。

(3) 生活指導

- ①今回は地域の方々へのアンケートを取ることができなかったため、地域による生活指導の意見を聞くことができなかった。しかし、今まで登下校時の通学マナー等については肯定的な意見が特に低く、地域からは50%の低い評価をいただいていたため、今後も継続的に安全指導についてさらに生徒の規範意識向上に努めたい。
- ②生徒の「生活指導の方針について、理解・納得していますか」というアンケートについては昨年度より1%下がり、79.3%となった。1・2年生での肯定的意見が低いのは、自宅学習の期間が長く、時差登校・分散登校も影響しているものと考え

えられる。朝の校門指導等の日頃の生徒指導を通じて、生徒理解を深めながら指導を行っていききたい。生徒の問題行動への指導件数が減少した。

③美化委員会による学期ごとの評価等の継続実施により、校内美化が推進された。

④自殺予防対策として、教職員・生徒からの情報を共有し組織的に取り組めた。

スクールカウンセラーを活用し、早期発見に努め生徒の悩みに対応した。

(4) 特別活動・部活動

①部活動加入率は91%で昨年より3%減少し数値目標を達成することができなかった。毎年同じ調査方法で調査を行っているが、今年度は大会等も中止等が多く、昨年16部が都大会と同等以上の大会に出場していたが、今年度は7部が出場する結果になり数値目標を達成できなかった。また、地域のボランティア活動等への参加も中止になり、主な活動実績を上げることができなかった。今後の地域活動が再開されたら支援・交流活動も継続して実施し、積極的に社会に貢献する態度を育てることができた。

②サポートティーチャーによる継続的な小論文指導や放課後の自習支援等、進路実現に向けた多様な指導を充実させた結果、生徒の第一志望の実現が推進された。

③今年度は東京都教育委員会主催の東京体験スクールからの留学生を迎え、国際交流活動を実施できなかった。今後もこうした取組みにより国際理解教育を推進し、多くの生徒が積極的に参加することができるようにさせていきたい。

(5) 健康づくり

①本校独自の部活動運営指針・外部指導員職務規定により、体罰・不適切な指導の防止を徹底した。生徒の体力テストの結果は、全国平均に届かない種目もあったため、今後も体力向上に取り組む。

②スクールカウンセラーによる1学年生徒全員との面接のほか、生徒理解の校内研修会を計3回行い情報の共有を図り、生徒一人一人の状況に応じた指導・支援を全校体制で行うことができた。

③新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として総務保健部を中心に消毒等を徹底し、学校施設の環境整備を行った。また、担当教諭から毎日登校時、昼食時に生徒に向けて放送による注意喚起を行い、拡大防止の意識を高めさせることができた。

(6) 募集・広報活動

①今年度は、文化祭が中止になり本校の教育活動を理解してもらう機会が限られた。しかし、感染拡大防止を配慮した学校説明会や今年新しく実施した施設見学会を実施し、来校できなかった保護者や中学生の来校の機会を増やし、本校の教育活動の周知に努めた。その結果、学校説明会、校舎内見学会等で1824名の保護者・中学生の来校がみられ、入試倍率も向上した。今後もHPや学校行事等のさらなる充実に努め、本校の教育活動を発信していきたい。

②ホームページの更新回数は246回で昨年と比較すると16回で今年の数値目標の280回を達成することができなかった。コロナ関係の発信については多かったが、部活動や学校行事の発信が少なかったと考えられる。今後の状況を考えながら、学校説明会の実施方法を改善し、部活動体験の回数・参加人数も増加させるなど、効果的に情報を発信させていく。

③例年、吹奏楽部、ダンス部、ボランティア部等が、小中学校との交流や地域行事に積極的に参加しているが、今年度は実施することができなかった。再開ができ次第、地域連携を深めていきたい。

(7) 学校経営・組織体制

- ① 3年生の進路希望の実現については、保護者との連携の下、全校体制での組織的な指導を強化し、生徒全員の第一志望の実現を目指した。生徒・保護者の学校満足度は、昨年度と比較し大きく変化は見られなかった。
- ② メール一斉送信システムの継続実施など、自律経営推進予算を活用した安心・安全な学校づくりを推進した。また、実態調査に基づく設備の改善、不要物品の整理等による校内の施設の有効活用も推進した。
- ③ 各教科・分掌等でのOJT等、教育委員会主催の研修等を活用して人材を育成した。
- ④ 個人情報管理の徹底や体罰防止・不適切な指導の防止など、法令を遵守した教育活動を徹底した。
- ⑤ 公開講座は実施することができなかった。施設開放については開放時期を考慮し、テニスコートの使用のみに希望団体があり2団体に開放をすることができた。今後も施設開放等を通じて、地域や都民に開かれた学校づくりを推進した。
- ⑥ 募集・広報活動の一つとして校舎内見学会やオンラインを活用した学校説明会を行い、広報活動の充実に努めた。

(8) 重点目標と数値目標の結果

- ① 全校体制での組織的指導の継続による、大学進学実績の一層の向上
一般受験を中心とした指導を継続した結果、国公立・GMARCH以上現役合格者数は5名（－4名）、日東駒専以上現役合格者数は86名（－25名）で共に減少した。推薦入試・AO入試を活用し、四年制大学への現役進学率は過去3年間と比べ最も高くなったが、今後は教科指導・進路指導等の組織的な取組みにより、難関大学への一般入試合格者を増加させていく必要がある。
- ② 部活動・学校行事等と学習活動・進路実現の両立の推進
学習活動と部活動の両立を考え、部活動ごとでも学習指導の定着を図ったが、今年度は国公立大学、難関私立大学合格者はいなかった。
- ③ 募集・広報活動の一層の充実と男女別入試倍率の定着
大きな改善例年通りの学校案内の充実や学校説明会の実施方法の改善等により、最終応募倍率は、1.47倍（男子1.4倍、女子1.5倍）となり、昨年度と比較して男女ともに入試倍率は上がった。

重点目標	令和2年度	数値目標	31年度	30年度	29年度
生徒の授業満足度	84.6%	85%	84%	83%	78%
長期休業中の講座数	59講座	80講座	71講座	110講座	90講座
四年制大学への現役進学率	62%	60%	55%	59%	54%
国公立・GMARCH以上現役合格者数	5名	15名	9名	19名	9名
日東駒専以上現役合格者数	86名	115名	111名	117名	76名
部活動加入率	91%	92%	94%	89%	91%
都大会レベル以上出場部数	7部	15部	16部	13部	14部
文化祭来校者数	(中止)	4000人	3785人	3925人	3330人
文化祭来校中学生数	(中止)	1500人	1339人	1467人	1245人
学校満足度（生徒）	86%	85%	86%	82%	75%
学校満足度（保護者）	87%	85%	85%	86%	85%
入試倍率（最終応募）	1.47倍	1.3倍	1.18倍	1.44倍	1.35倍

数値は令和3年3月30日現在

Ⅱ 次年度以降の課題と対応策

(1) 学習指導

生徒の授業満足度は、数値目標を達成することができたが、授業内容の改善を含め今後どのようにこの数値を維持していくかが課題である。国公立を含め中堅私大の受験に対応できる授業の実施に向け、校内・校外での研修を充実させて成果を共有し、各教科および学校全体での授業力の向上を目指す。

(2) 進路指導

講習・補習等については、春期講習・夏期講習・冬期講習を継続実施すると共に、より多くの生徒の参加に向け、改善を推進する必要がある。授業時の講習も行い生徒の第一志望実現に向けた全校体制での指導を一層推進させることで、国公立を含めG M A R C H、日東駒専以上の大学への進学実績を向上させる。

(3) 生活指導

部活動・学校行事等の様々な機会と通じた組織的な指導により、いじめ防止やSNS等の適正利用等に向けた、生徒の規範意識・コミュニケーション能力を伸ばす。

(4) 特別活動・部活動

部活動の都大会以上の参加と中堅大学への一般受験での合格についてはある程度達成できたが、より高いレベルでの両立を推進する必要がある。また、東日本大震災の被災地支援活動や地域活動など、多様な体験・学習の機会を通じて、生徒の社会性を伸ばす。

(5) 健康づくり

スクールカウンセラーと学校・保護者の連携の推進など、校内の指導体制を一層充実させ、心身ともに健康な生徒の育成を推進する。特に、体力テストでは、生徒の動機づけ等を工夫し、各種目の結果を向上させる必要がある。

(6) 募集・広報活動

学校説明会等への来校者増加に向け、学校からの発信を含め、新たな工夫・改善を推進する必要がある。

(7) 学校経営・組織体制

生徒募集において本校の特色の周知に努めると共に、週1回の企画調整会議により様々な課題に対する具体策を検討し、全校体制で継続実施することで、「入ってよかった」から「入って頑張る」学校の実現を推進する。

(8) ライフワークバランスの推進

教員が心身の健康を損なうことのないよう業務の質的転換を図り、限られた時間の中で生徒に接する時間を十分に確保し、生徒に真に必要な総合的な指導を持続的に行うことのできる状況を作り出すことを目指す。